

加賀市年次報告書

本市が平成 30 年度に行った主な事業の取り組みについてご紹介します。 園政策推進課 ☎ 72-7830

将来への備え

子育て支援・サービスの充実を図りました

<かがっこ応援プロジェクトの推進>

- 妊産婦・乳児健康診査委託事業（決算額：4,808 万円）
 - ・妊産婦の健康状態と赤ちゃんの発育状況を把握し、安心・安全に産前産後の期間を過ごせるように支援するため、妊産婦や乳児の健康診査にかかる費用を助成
- 医療的ケア児支援事業（決算額：51 万円）
 - ・医療的なケアを必要とする児童が、同年齢の児童とともに、保育園等で安心して生活できる体制を整備
- こども医療費助成事業（決算額：2 億 2,882 万円）
 - ・18 歳の年度末まで、子どもにかかる医療費の窓口無料化を実施
- 多子世帯等児童生徒給食費助成事業（決算額：4,847 万円）
 - ・多子世帯等における保護者を対象とした給食費の全額助成
- （仮称）片山津地区保育園建設事業（決算額：616 万円）
 - ・金明・湖北・潮津の3保育園を再編し、新たな保育園を整備するための測量を実施
- 子どもの楽しい遊び場づくり事業（決算額：8,286 万円）
 - ・中央公園おとぎの国に噴水施設を整備
- かがにこここパーク運営事業（決算額：3,011 万円）
 - ・天候に左右されずに遊べる、市内初の屋内児童遊戯施設である「かがにこここパーク」を運営



▲中央公園の噴水施設



▲かがにこここパーク

若者などの移住・定住の促進に取り組みました

<「PLUS KAGA」の推進>



▲加賀市の未来構想のため集まった若者

- プラス・カガ次世代構想ワークショップ開催事業（決算額：400 万円）
 - ・大学生等の若者目線による加賀市の新しい魅力や豊かな未来を描いたビジョンを市内外に広く発信することにより、若者等の加賀市への移住定住を促進するとともに、関係人口を創出

- ローカルベンチャー育成事業（決算額：6,259 万円）
 - ・新たに起業を考え、加賀市に移り住む若い世代の起業家（ローカルベンチャー）を育成。地域おこし協力隊による地域資源を活用した起業を支援
- 「認知症国際アジア会議 in 加賀」開催事業（決算額：1,728 万円）
 - ・日本における最先端の認知症予防とケアを学ぶための会議を開催し、先進福祉モデルとして加賀市の情報発信を行うことで、民間研究機関等の誘致を促進



▲認知症国際アジア会議 in 加賀を開催

将来への備え

元気で健やかに暮らせるまちづくりを推進しました

<KAGA健食健歩プロジェクトの推進>

- 健康づくり事業（決算額：94万円）
 - ・(株)タニタの健康プログラム、ラジオ体操やウォーキングの取組、「健幸ポイント」の活用などにより、地区組織や各種団体、民間企業等と協働し、健康づくりを推進
- かが健康グリーンパーク整備事業（決算額：2億1,976万円）
 - ・誰もが気軽に楽しめるグリーンスポーツの普及による健康増進を図るため、パークゴルフ等を行うことのできる公園施設を整備
- ウォーキング教室開催事業（決算額：11万円）
 - ・体力づくりや健康増進のため、通常のウォーキングより運動効果の高いノルディックウォーキングの普及を目指し、専門講師から歩き方等を学ぶことのできる教室を開催



▲令和元年10月1日にオープンした「かが健康グリーンパーク」



▲ノルディックウォーキングの様子



- スマートインクルージョン推進事業（決算額：929万円）
 - ・誰もが安全安心に暮らせて社会に参画できる都市づくりを目指し、AI、IoT等で障がい者の支援を行う「スマートインクルージョン」の推進宣言を行うとともに、事業構想の策定と調査を実施

◀スマートインクルージョン推進宣言の様子

安心して暮らせるまちづくりを推進しました

- 消防ポンプ自動車等の更新事業（決算額：1億9,330万円）
 - ・救急自動車（大聖寺分署）、水槽付消防ポンプ自動車（山中分署）、消防ポンプ自動車（三木分団）を更新整備
 - ・防災拠点施設としての機能強化を図るため、片山津分署の耐震改修工事を実施



▲消防山中分署に更新整備した水槽付消防ポンプ自動車



▲耐震改修した消防片山津分署



▲屋外拡声スピーカー



▲トランシーバー型無線機の中継局

- 防災行政無線や移動系中継局の整備事業（決算額：1億3,616万円）
 - ・防災行政無線の屋外拡声スピーカーを市内78箇所に設置するとともに、職員連絡用として、トランシーバー型無線機の中継局を整備
- 道路除雪体制の強化事業（決算額：431万円）
 - ・除雪車113台にGPS装置を設置し、常に稼働位置を把握することができる除雪車両運行管理システムを導入

IoTなどを活用した人材育成と新産業・研究への支援を行いました



▲イノベーションセンターを整備



▲「加賀ロボレーブ国際大会」の様子

<スマート加賀IoTの推進>

- **イノベーションセンター整備事業**（決算額：8,945万円）
 - ・IoT人材の育成やスタートアップ企業の支援、高度研究の拠点として「加賀市イノベーションセンター」を整備
- **IoT人材育成事業**（決算額：2,915万円）
 - ・IoT技術を活用して業務改善や革新的な取り組みができる人材を育成
- **IoT実証事業**（決算額：993万円）
 - ・農業分野において、IoT技術を導入したセンサーから温度や湿度等のデータ等の収集と分析を行い、商品化率の向上などを支援
- **ロボレーブジャパン国際ロボット大会推進事業**（決算額：1,108万円）
 - ・視野の広いものづくり人材や科学技術者の育成を目的としたロボットプログラミングの大会を開催

- **産業団地整備等準備事業**（決算額：743万円）
 - ・産業団地候補地の地質調査等の事前調査を実施
- **業務効率化に向けたRPA導入事業**（決算額：1,625万円）
 - ・業務効率化と行政コストの削減に向け、RPA（ソフトウェア型ロボットによる事務作業の自動化技術）を導入

戦略的な観光振興に取り組みました

- **海外都市交流事業**（決算額：1,729万円）
 - ・海外誘客の促進に向け、台湾やシンガポール等との交流を実施
- **インバウンド推進事業**（決算額：3,851万円）
 - ・アジア諸国などへの戦略的な情報発信により、海外からの誘客を促進
- **都市圏戦略誘客推進事業**（決算額：3,572万円）
 - ・さまざまな媒体を活用した観光宣伝・誘客活動を展開するとともに、旅行会社とタイアップ旅行商品を企画造成
- **東京2023加賀プロジェクト事業**（決算額：900万円）
 - ・2023年春の北陸新幹線県内全線開業をテーマに、加賀市の話題性を高めるためのプロモーション動画を制作配信
- **柴山瀉遊歩観光ルートプロジェクト**（決算額：1億3,352万円）
 - ・柴山瀉周辺の水辺空間を活用した湖岸遊歩道の整備のほか、白山を眺望する視点場「白山眺望広場」を整備
- **北前船日本遺産活用事業**（決算額：187万円）
 - ・市民歴史講座の委託やミュージカル劇の開催補助、北前船日本遺産推進協議会への参加など、日本遺産に認定されている北前船の普及啓発を実施



▲シンガポールのチンゲイパレードで加賀市をPR



▲ミスインターナショナルが加賀市を発信



▲柴山瀉に設置した白山を眺望する視点場

成長戦略

教育とスポーツで笑顔あふれるまちづくりを推進しました

< STEAM 教育※ の推進 >

※科学、技術、工学、芸術、数学を統合的に学習する教育手法

- **プログラミング教育推進事業**（決算額：1,860万円）
 - ・新学習指導要領の全面実施に先がけ、平成29年度より全小中学校でプログラミング学習等を実施
- **「地域ICTクラブ」構築実証事業**（決算額：537万円）
 - ・児童生徒や地域住民が、プログラミングなどを楽しく学び合える場「地域ICTクラブ」構築に向けて実証事業を実施



▲「地域ICTクラブ」の様子



▲「かがく字かん公開研究会」の様子



▲加賀温泉郷マラソン 2018



▲ポルトガル柔道選手団の調整合宿

- **教育交流活動事業**（決算額：859万円）
 - ・児童生徒の国際感覚や国際友好親善の心を育成するため、台湾・シンガポール等への派遣や受け入れを実施
- **かがく字かんプロジェクト事業**（決算額：550万円）
 - ・市民の豊かな教養の醸成を図るため、中谷宇吉郎博士の研究の基礎となった「自然科学」と「芸術」をテーマにシンポジウムやワークショップを開催
- **小中学生補充学習推進事業**（決算額：329万円）
 - ・学力向上に向け、小学校5年生から中学校3年生までの児童生徒を対象に、休日や放課後、夏休みを利用した補充学習を受ける公営塾を実施
- **加賀温泉郷マラソン、寛平ナイトマラソン推進事業**（決算額：4,574万円）
 - ・加賀温泉郷マラソン 2018 (5,778人参加) と加賀温泉郷寛平ナイトマラソン 2018 (1,068人参加) を開催
- **海外オリンピック選手事前合宿誘致事業**（決算額：423万円）
 - ・オリンピック事前合宿の誘致に向け、大阪で開催の柔道世界大会に参加するポルトガル柔道選手団の日本国内調整合宿を受け入れ

美しく快適なまちづくりを推進しました

- **山中温泉「こおろぎ橋」の架け替え事業**（決算額：6,195万円）
 - ・山中温泉のシンボリック的存在である総ヒノキ造りの木橋で全国的にも珍しい橋梁の「こおろぎ橋」の老朽化に伴い、架け替え工事を実施
- **大聖寺「松島橋」の架け替え事業**（決算額：4,739万円）
 - ・大聖寺八間道～大聖寺上福田町にかかる「松島橋」は、老朽化が進んでいることから架け替え工事に着手し、橋台工事等を実施
- **地域交通対策事業**（決算額：1億204万円）
 - ・地域公共交通の維持改善を目的とした民間バス事業者への運行補助及び市内全域をエリアとした乗合タクシー（のりあい号）を運行
- **加賀温泉駅周辺施設整備事業**（決算額：367万円）
 - ・北陸新幹線加賀温泉駅舎の建設工事により支障となる現広場施設・機能を段階的に仮移転するための設計を実施



▲令和元年10月に完成した「こおろぎ橋」